

今日のトピック 中国株式市場

深圳・香港の相互取引開始で売買の活発化に期待

ポイント1 本土株投資の道が広がる

■ 12月5日から、中国深圳と香港の証券取引所間で株式の売買注文を取り次ぐ相互取引を開始しました。14年11月に上海と香港市場間で始まった相互取引に次ぐ取引となります。中国本土の投資家は上海市場に加え、深圳市場を経由することで対象銘柄が増加することになり、人民元建て以外の株式に投資する道がさらに開けました。一方、海外投資家の中国本土株投資には制限がありますが、今後は特別な資格がなくても深圳上場の人民元建て株式に投資できるようになりました。

ポイント2 新興企業に注目

■ 深圳株式市場は、成長が見込まれる民間企業が多く上場しています。例えば、珠海格力電器や美的集団等の電機大手のほか、京東方科技集団といったIT（情報技術）企業が上場しています。こうした企業はこれまで海外投資家は取引できませんでした。中国企業の成長性やグローバル展開を見据え、海外から徐々に資金が流入すると期待されます。
※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

今後の展開 人民元の国際化を推進

■ 深圳・香港証券取引所の相互取引は、中国政府の資本自由化策の一環です。相互取引によって売買が活発化し、人民元の流通が増えれば、人民元の国際化が促進されます。また、海外投資家の売買がより自由化されれば、多くの機関投資家が運用の目安としているMSCIインデックスに採用され、中国株式市場の時価総額が拡大する可能性が高まります。

上海、深圳と香港の株式相互取引

	上海市場	深圳市場
市場の特徴	鉄鋼、金融、エネルギー等の国営企業のウエイトが高い	電気機器、IT、ヘルスケア等の新興・民間企業が数多く上場
対象銘柄数	569	881
対象銘柄の時価総額計	21.8兆円	15.0兆円
全市場に対する割合	85%	74%
対象銘柄の1日当たり売買代金	1,370億元	2,300億元
全市場に対する割合	68%	68%
1日当たり買い越し金額の上限	130億元(約1,980億円)	
取引開始時期	2014年11月17日	2016年12月5日

(注) 時価総額(同全市場に対する割合)、1日当たり売買代金(同全市場に対する割合)は2016年7月現在。香港証券取引所推計。
(出所) 香港証券取引所等の資料から三井住友アセットマネジメント作成

香港市場経由の深圳株式への投資 ～12月5日の出来高上位5銘柄～

順位	企業名	概要
1	珠海格力電器 (クー・エレクトロニクス・アプライアンス)	中国エアコンメーカー最大手。電気自動車(EV)部門にも注力
2	美的集団 (ミデア・グループ)	中国最大級のグローバル家電メーカー。東芝の白物家電事業を買収
3	杭州海康威視数字技術口	ビデオ監視機器メーカー
4	潍柴動力 (ウェイチャイ・パワー)	大型ディーゼルエンジンメーカー。大型トラック、建設機械、船舶などに使用
5	京東方科技集団 (BOEテクノロジー・グループ)	液晶パネルの中国最大手。ディスプレイデバイス、8K液晶ディスプレイ、IT関連サービス

(出所) 香港証券取引所HPから三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年12月 5日 最新 中国株式マーケット動向
2016年11月15日 最近の指標から見る中国経済 (2016年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。